

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

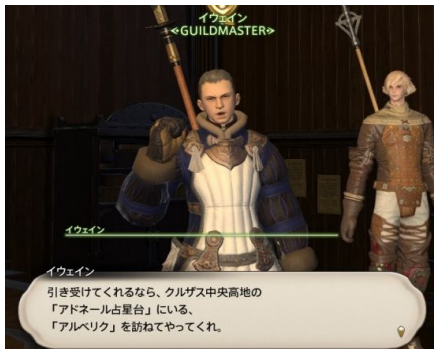
FF14 備忘ログ(PATCH2.0) ジョブクラス編



竜騎士クエスト

竜の眼

イウェイン： よお、◇◇◇。お前の腕を見込んで、ひとつ頼みがあるんだ。
黒衣森の北西、険しい岩峰連なるクルザス地方…… 断崖に囲まれた城塞都市「イシュガルド」にいる俺の友に、力を貸しちゃくれねえか？
イシュガルドは、仇敵ドラゴン族との戦いに尽力すべく、体制を引き締めるため、長く門戸を閉ざしている。
巡回してる竜騎士を見かけたこともあるだろうが、冒険者にゃ、馴染みのねえ都市だろうな。
いちおう、各都市の間で穏やかな関係はあるから鬼哭隊が手を貸すっていう提案もしてるんだが、向こうから断わってきやがってな。
あえて、鬼哭隊ではなく、しがらみの少ない冒険者の手を借りたいらしい。……どうやら、大きな声のできる話じゃねえようだ。
詳しい話は、直接したいってことだからお前にとって、おいしい話かわからねえんだが……
引き受けてくれるなら、クルザス中央高地の「アドネール占星台」にいる、「アルベリク」を訪ねてやってくれ。

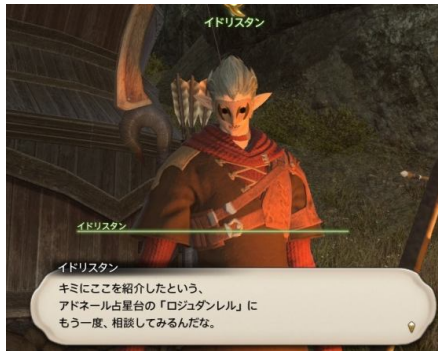


アルベリク： 君が、イウェインから紹介のあった冒険者か。ご足労、感謝する。不躰な依頼を詫びよう。
私は、アルベリク・ベイル。皇都イシュガルドの神殿騎士だ。
単刀直入に言おう。イシュガルド教皇庁、秘蔵の品「竜の眼」が奪われた。これを取り戻すために、手を貸してほしいのだ。
「竜の眼」を持ち去ったのは「竜騎士エスティニアン」。竜騎士……イシュガルドの為に槍を振るう身でありながら、
教皇統下に背いた罪は重い。
私は普段、都市内の神殿に詰めているため、震災後のグリダニア領境界付近の事情に疎い。
まずは、この辺りの情報に詳しいここアドネール占星台の衛兵「ロジュダンレル」に、逃亡者が向かいそうな場所を聞き出してほしい。
悪いが、時間がないのだ。何故なら、あやつ、エスティニアンは……
ともかく、急いで「竜の眼」を取り戻さねばならん。黒き鎧に身を包んだ、騎士エスティニアンを追ってほしい。
だが、事情が事情だ……詳細は決して口外しないでくれ。



ロジュダンレル： イシュガルドからの逃亡者を取るルートだと……？ あんた、何かを追っておるのか？
……まあ、たいていは北部森林へ逃げるだろうね。グリダニア領は、イシュガルドと同じでエレゼン族が多いから、目立たないからのう。
人探しなら、北部森林の国境線を守るフロランデル監視哨の「イドリスタン」に、人の出入りを確認するとよからう。

イドリスタン： イシュガルドから黒い鎧の騎士が来なかったか、だって？ 確かにクルザス方面から来る者を、監視しているが、
そんな奴は見かけなかったね。
キミにここを紹介したという、アドネール占星台の「ロジュダンレル」にもう一度、相談してみるんだな。



ロジュダンレル : なに、北部森林に向かわないとは、奇妙だのう…… ならば、イシュガルド領内で身を潜めておるのか？
追われる身でありながら、領内に留まるとは、何か事情があるに違いない……。そういえば、東の洞窟の方で怪しい煙を見かけたぞ。
あちらには滞留するような場所はないから、留まる者がいるとしたら、やましい者ぐらいだろう。
「焚き火」を調べれば、何か見つかるやもしれぬぞ。

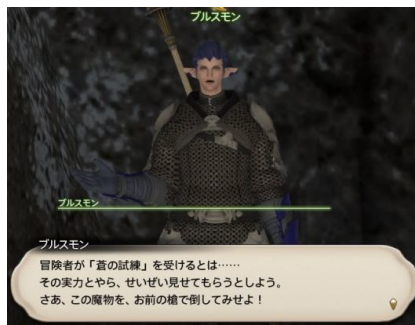
エステニアン : フン……。追手か？ 報酬目当ての冒険者か……。
な……。「竜の眼」が……。！？
バカな……。「竜の眼」が、俺以外の者に？ お前は、いったい……。
……。その顔、覚えておく。いずれ、また……。まみえる時が来るだろう。さっさと帰るがいい。



アルベリック : なに、黒い鎧の騎士に会った……。！？ まさか……。！ 詳しく話を聞かせてくれ！
なんとということだ……。君は……。 「竜の眼」に見初められてしまったというのか。
……。すべてを話さなければなるまい。少し長くなるが、聞いてほしい。
奪われた「竜の眼」は、ただの宝ではない。イシュガルドの竜騎士の中でも、最も強く賢い者に
「竜の力」を授けるという、不思議な力を持つ宝珠だ。
「竜の力」に目覚めた者は、ひとりでもドラゴン族と対等に渡り合うほどの力を得て、
空を制するがごとく舞う様から「蒼の竜騎士」と称される。
「蒼の竜騎士」の存在……。それは、イシュガルドの竜騎士たちにとって羨望の的であり、都市民にとっては希望の光なのだが……。
君が出会った黒い鎧の騎士。あやつこそ、宝珠「竜の眼」を持ち去った張本人。
そして……。私の弟子である「蒼の竜騎士」エステニアンだ。
エステニアンが竜騎士たる道を外れたのは、師である私の責任……。なんとしても連れ戻し、宝珠を取り返さねばならん。
そして、そのためには君の力が必要だ。何故ならば……。
「竜の眼」が、もうひとりの「蒼の竜騎士」を選んだ。それが他ならぬ◇◇◇、君だからだ。
証ならばここに。輝きに満ちる、この「竜騎士の証」。君の中に目覚めた「竜の力」に、確かに応じている。
「竜騎士の証」とは、「蒼の竜騎士」の力を呼び覚ますために古より伝わるクリスタル。
君にこそ必要なもの……。私にはもう、不要となったもの。
……。かつて私も、「蒼の竜騎士」として戦場を翔った。今は力を失い、この証もただの石片となり果てていたが、
まさか、このような形で再び使う日が来るとはな……。
冒険者である君が、何故「竜の力」に目覚めたのか。ふたりと同時に選ばれぬ「蒼の竜騎士」が、
何故もうひとり選ばれたのか……。それは、わからない。
だが、ただひとつ確かなことがある。「蒼の竜騎士」エステニアンを追えるのは、同じ力を持つ君だけだ。
あやつを追跡に、力を貸してほしい。礼として、代々の「蒼の竜騎士」に伝わる奥義を教えよう。
いずれにせよ、エステニアンを追うためには君に宿る「竜の力」を、完全に御さねばなるまい……。
あやつを追うために、長く厳しい試練が待つかもしれん。それでも手を貸すと、その槍に誓ってくれるなら
目覚めた「竜の力」が身体に馴染んだ頃、私を訪れてくれ。
異邦に生まれし、新たなる竜騎士◇◇◇。……。待っているぞ。

戦神の槍

アルベリク：驚いたな。ずいぶん早く「竜の力」を手懐けたものだ。エスティニアンと同じか、あるいは……
代々の「蒼の竜騎士」の中でも、エスティニアンは特に優れた「竜の力」の使い手で、
初代「蒼の竜騎士」征龍将ハルドラスの再来と称された。
それほどの男を追う力をつけるため、君に特別な「蒼の試練」を受けてもらいたい。
その前に、君にも話しておかなばなるまい。我らと竜との戦いの始まりは、およそ**1000年前……** **皇都イシュガルド勃興の時**に遡る。
はるか昔、南の平地に暮らしていた我らの祖先は戦神ハレオーネの天啓を受けた男「トールダン」に導かれ、
約束の地……クルザス中央高地を目指し、故郷を発った。
旅の途中、彼らは深く険しい谷に突き当たった。トールダンが、谷を渡るために橋を架けようとするど、
「ニーズヘッグ」という名の竜に襲われた。
トールダンは、竜と、竜に魅入られた者に襲われ死んだ。しかし、彼の息子「**ハルドラス**」が槍をとって反撃し、
ニーズヘッグの「眼球」をくり抜き、退けたのだ。
この「眼球」こそ、イシュガルドの宝珠「竜の眼」。ドラゴン族の力の源であるこれは強大な力を宿し、
意思弱き者が触れれば、竜に魅入られるという。
ハルドラスも「竜の眼」に触れ、己を失いかけるが、「正義の心」で打ち勝ち、その身に「竜の力」を宿した。
……これが「蒼の竜騎士」の始まりだ。
本来「竜の力」は忌むべきもの。……だが、征龍将ハルドラスはこう言ったという。
皇都イシュガルドに捧げる「正義の心」ある限り、「蒼の竜騎士」は己を失うことはない、と。
……なに、難しく考える必要はない。皇都に捧ぐ正義とは、我らイシュガルドの竜騎士の信念。
冒険者である君は、君自身の正義を貫けばよからう。
さあ、講釈はこれぐらいにして、試練を始めよう。**ウィッチドロップ**にいる神殿騎士「**ブルスモン**」に詳細を聞いてくれ。



ブルスモン：冒険者が「蒼の試練」を受けるとは…… その実力とやら、せいぜい見せてもらおうとしよう。
さあ、この魔物を、お前の槍で倒してみせよ！

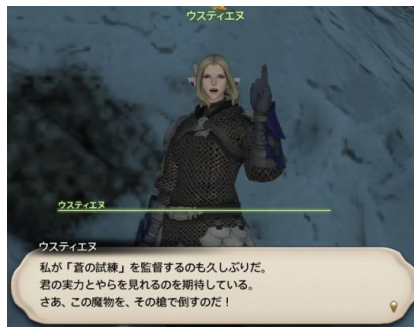
ブルスモン：フン……冒険者にしてはよくやる。アドネール占星台にいる「アルベリク」にお前の「竜騎士の証」の輝きを見せるがよい。

アルベリク：おお、その輝き……。試練を達成するほどの強さを示し、真摯なる君の心が「竜騎士の証」と共鳴したようだな。
君の内なる「竜の力」が、新たな力を授けたのだ。エスティニアンと対等に渡り合えるよう鍛錬を積み、
その力が君の身に馴染んだ頃、再び会おう。

消えぬ爪痕

アルベリク：「蒼の竜騎士」らしい身構えとなったな。……実を言うと、迷わぬわけではなかった。本当に君に「竜の力」を託してよいものかと。……以前、「竜の眼」は、「邪竜ニーズヘッグ」の眼球だと話しただろう？ 古の英雄ハルドラスがくり抜いたものである、と。君は、寓話か神話の類だと思ったかもしれん。ドラゴン族を見たことがない冒険者も多いからな。それがどれほど幸せなことか、わからぬだろう。

邪竜ニーズヘッグは実在する。奴は、イシュガルドの長き歴史において、8度目覚めた。その度に、数多の血と涙がイシュガルドの大地へ注がれた。次なる「竜の試練」の前に、ひとつ昔話をしよう。ニーズヘッグの最後の目覚めは、今から20年前のこと……。ドラヴァニアの地にて、100年の眠りから目覚めた邪竜ニーズヘッグはクルザス地方を襲来。手当たり次第に村落を襲い、破壊し、焼き払った。奴の狂気に誘われてか……。眠りについていたドラゴン族も次々と目覚め、イシュガルドの空は、たちまち無数の竜に覆われた。陽は遮られ、重苦しい闇がイシュガルドを飲み込んだ。空を焦がす火の色を、今でも鮮明に覚えている……。『蒼の竜騎士』であった私の前で、多くの命が焼かれた。……祈りを捧ぐ暇などなかった。戯れのように飛ぶ邪竜を、私は、ひたすらに追った。永遠に続くかと思われた攻防に決着がついたのは、……邪竜が目覚めてから、3日目の晩のこと。クルザスの端の小さな村落で、ついに奴と対峙した私は、身体に残る力のすべてを振り絞り、瞳のない眼窩に槍を突き刺した。邪竜は暴れ、私は地に叩きつけられた。だが、その爪が私に振り下ろされることはなかった。ニーズヘッグは退き、三日に及ぶ戦いは終わったのだ。多くの仲間、罪のない民の命が犠牲になった……。そして私も、この戦いによって「竜の力」を失った。エスティニアンも、この戦いで故郷と肉親を失った。ほんの幼子であった彼は、邪竜が最後に襲った村である「ファーンデール」の唯一の生き残りだ。幼くしてすべてを失った彼を、門弟として引きとったのは、「ファーンデール」を守れなかったことへの私なりの償いだったのかもしれない……。再び、あの悪夢を繰り返させるわけにはいかん。ドラゴン族どもの考えなど、我らに計り知れるものではないが……。奪われた「眼」に起きている異変を察知した。ニーズヘッグが再び、目覚める可能性は高い。少なくとも、確実にドラゴン族が騒ぎ出している。時間がないのだ。君には、さらに特別な竜騎士の試練「蒼の試練」を受けてもらう。詳細は、**ウィッチドロップ**にいる、神殿騎士「**ウスティエヌ**」に聞いてくれ。



ウスティエヌ：私が「蒼の試練」を監督するの久しぶりだ。君の実力とやらを見れるのを期待している。さあ、この魔物を、その槍で倒すのだ！

ウスティエヌ：見事……その力は、エスティニアンに並ぶやも。アドネール占星台にいる「アルベリク」にお前の「竜騎士の証」の輝きを見せるがよい。

アルベリク：実に美しい「竜騎士の証」の輝き……。新たな「竜の力」が目覚めたようだ。この調子なら、エスティニアンに互する日も遠くはなからう。そして、その時こそ「竜の眼」を取り戻す時だ。だが、今は焦らず、力を御すことに専念してほしい。その力が身に馴染んだ頃、再び私のもとを訪れてくれ。

双竜の邂逅

アルベリク : 待っていた。エスティニアンから報せがあった。君と一緒に、「**巨石の丘**」まで来てほしいという。
エスティニアンが何を考えているのかはわからん。だが……行かねばなるまい。エスティニアンに会い、奴の思惑を確かめなければ。

エスティニアン : 久しぶりだな。

アルベリク : エスティニアン、「竜の眼」をイシュガルドへ戻せ。異変に気づいたドラゴン族どもが、目覚め始めている。
邪竜まで目覚めれば、20年前と同じことが起こるぞ。

エスティニアン : ……もう、遅い。ニーズヘッグは、すでに目覚めてしまった……。

アルベリク : ……なに！？ どういうことだ！？

エスティニアン : 聞け、アルベリク。ニーズヘッグが目覚めたのは、「竜の眼」が持ち出されたからではない。
俺は、ニーズヘッグの目覚めを予感していた。俺の中の「竜の力」が告げたんだ。間もなく目覚める邪竜より皇都を守れ、と。
邪竜が20年前に負った傷は、深い憎悪として刻まれた。次に目覚めた時……
邪竜は、真っ先に眼の置かれるイシュガルドを襲うだろう。
ならば……。『竜の眼』をイシュガルドから引き離せば、皇都に暮らす民が犠牲となることはないはずだ。

アルベリク : ……困ったというのか？ いや……お前は、故郷「ファーンデール」の仇を……！？

エスティニアン : 俺にとっては同じことだ。ニーズヘッグに滅ぼされた、家族、友、故郷……。すべての仇を討つために、俺は竜騎士になった。
邪竜を一時的に退けたところで、次に目覚めた時には、また必ずやイシュガルドを襲う。
怒りを強め、イシュガルドを憎み、滅ぼしに来る。
ならば俺は、この命に代えてもニーズヘッグの息の根を止めねばならない。
フン……『竜の眼』も気まぐれなものだな。同じ時代に「蒼の竜騎士」を、ふたりも生むとは……。
まるで、自らを滅ぼしてくれと言わんばかり。
冒険者、お前の力が必要だ。邪竜を討つために、「竜の力」を貸してくれ。
蒼の竜騎士が、ふたりといた時代はない…… 邪竜を倒すには、またとない好機なのだ。
力を貸してくれるのなら、急ぎ、「蒼の竜騎士」に代々伝わる奥儀の伝授を受けよ。
だが、そのためには4つの「竜騎士の甲冑」が必要……。
俺が纏うこの甲冑は、ドラゴンの生き血を使って作られ、「蒼の竜騎士」の身に宿る「竜の力」を高める。
この「甲冑」の助けなしには、奥儀は修得できんのだ。
ただし、「甲冑」を手に入れるには、相応の試練を乗り越えねばならんがな……。
詳しい話は、帰ってから、じっくりと「アルベリク」に聞くことだな。……時は一刻を争うぞ。

アルベリク : 待て、エスティニアン、お前は……。

エスティニアン : 心配は要らない。お前の準備が整うまで、時間をかせぐ。
……待っているぞ。

アルベリク : エスティニアン、お前は……。
……ああ、すまない。少し考え事をしていた。
エスティニアンは、奥儀を修得せよと言った。言われるまでもない……元より私は君に「甲冑」を授け、
奥義を伝授するつもりだったのだよ。
だが、「竜騎士の甲冑」は、ただの防具などではない。ドラゴンの生き血に漬けて、鍛え上げたミスリルにより、作られた代物だからな。
試練によって、その槍に誓う正義が証明されたとき、「竜騎士の証」と共鳴し、甲冑の封印が解かれるのだ。
ゆえに、君には各地で試練を受けてもらおう。試練を乗り越えることで、「竜騎士の証」を輝かせ、
監督する神殿騎士より、「竜騎士の甲冑」を授かるがいい。
試練の地は「**悪鬼の胃袋**」。かの地に神殿騎士「ブルスモン」を手配しておく。詳細については、その者に尋ねてくれ。

ブルスモン : 冒険者の分際で、「竜騎士の甲冑」が欲しいそうだな。果たして君に、その資格があるか試させてもらおう。
さあ、現れる魔物を、その槍で倒すのだ！

ブルスモン : 見事……槍に誓った君の正義が証明された。「竜騎士の甲冑」の封印も解けたぞ。さあ、受け取るがいい。
次なる試練の地は、この先だ。奥へと進み、神殿騎士「ウスティエヌ」に、試練に挑む旨を申し出よ。

ウスティエヌ : よそ者が、「竜騎士の甲冑」を入手しようなどと…… 我らを納得させる实力を見せられるかな？ この魔物を討伐するのだ！

ウスティエヌ : 「竜の眼」に選ばれたのは、伊達ではないようだ。お前の槍に誓った正義に呼応して封印が解けた、この「竜騎士の甲冑」を受け取れ。
だが、次はどうか……？ さらに奥へと進み、神殿騎士「ブルスモン」に、次なる試練へ挑むと申し出よ。

ブルスモン : やはり、ここまで来たか。だが、次なる試練は、今まで以上に困難で危険だ。心して、かかるがいい！

ブルスモン : 甲冑の封印は解けた。さあ、これを受け取るがいい。試練の地で得られる「竜騎士の甲冑」は、これですべてだ。
残る「竜騎士の甲冑」については、アドネール占星台にいる「アルベリク」から説明を受けよ。

アルベリク : エスティニアンが指示した4つの「竜騎士の甲冑」…… その4つ目を得るためには、ある墓に見守られながら、
試練を乗り越える必要がある。
試練の地は、スチールヴィジルの北西。かの地にて、この「竜の魔笛」を吹き、試練の魔物を呼び寄せるのだ。
この魔物を討伐し、「ドラゴン眷属の頭骨」を手に入れ、私のところまで持ち帰るのだ。

アルベリク : 最後の試練を乗り越え、「ドラゴン眷属の頭骨」を持ち帰れたら、残る「竜騎士の甲冑」を手渡そう。
見事に「竜騎士の証」が輝いているな。……冒険者でありながら、「竜騎士の甲冑」を
まとうにふさわしい存在であることが証明された。
さあ、残る「竜騎士の甲冑」を授けよう。これで、君が奥儀を修得する準備が整ったが…… 今一度、君に確認したい。
君は……邪竜ニーズヘッグを倒すため本当に、エスティニアンと共に戦う覚悟があるのか？
その決意に揺るぎなければ、今一度、私に声をかけよ。



邪竜の声

アルベリク： そうか……ニースヘッグを倒すため本当に、エスティニアンと共に戦うつもりなのだな。ならば、「蒼の竜騎士」に代々伝わる奥儀を伝授するため、最後の試練を与えよう。だが、その前に……君に伝えておかねばならないことがある。私は、かつて「蒼の竜騎士」だったと言ったな。そして、20年前の邪竜との戦いで「竜の力」を失った、と。違うのだ……。私は「竜の力」を失ったのではない。……私は、自ら「竜の力」を捨てたのだ。……20年前。眼窩に槍を突き刺した私を見る、邪竜の残る瞳……。そこから、とてつもない感情が、私の内に流れこんだ。憎悪、悲しみ、そして憐れみ……。そのように簡単な言葉にできぬ強い感情が、まるで己の感情かのごとく、私を飲み込んだのだ。「蒼の竜騎士」に宿る「竜の力」は、ドラゴン族からの交信に共鳴しやすく、それを増幅する。邪竜に魅入られぬためには、みずから「竜の力」を捨てるしかなかった。その結果……。私は辛くも竜に魅入られずにすみ、深い傷を負ったニースヘッグは、「ファーンデール」から退いた。だが「竜の力」を捨てたことにより、他のドラゴン族の群れから、ファーンデールの人々を救うことは叶わなかった……。ただ、幼いエスティニアンを助け出すので精一杯だった……。しかし、エスティニアンはまだ、この真実を知らない。エスティニアンは言った。皇都を守ることも、邪竜に復讐を果たすことも同じだと……。だが、「弱きを守る」正義の力と、「復讐を果たす」憎悪の力は、まったく異なる！あやつ心の心は、陽炎のように揺れている。このままでは、エスティニアンが心配だ。次にエスティニアンに会うとき、伝えねばならない。邪竜と戦うならば、「竜の力」を捨てる覚悟も必要だと。「竜の力」は、ドラゴン族の力。槍に誓った正義を見失えば、ドラゴン族に魅入られる……。このことを、決して忘れるな。さあ、奥儀修得の試練を伝えよう。試練の地は「**神意の地**」……。そこで、この「竜の魔笛」を吹き、ドラゴン族の眷属を呼び寄せ、これを倒すのだ。試練を乗り越え、誓った正義に相応しき強さと心の力を示せ。そうすれば「竜の力」に共鳴したクリスタルが、君に奥儀をもたらすだろう。正義を貫くがために、正しき「竜の力」が目覚めんことを。



アルベリク： 試練を乗り越え、誓った正義に相応しき強さと心の力を示せ。正義を貫くがために、正しき「竜の力」が目覚めんことを。戻ったか、「竜騎士の証」が力強く輝いているな。これで「蒼の竜騎士」に伝わる奥儀が扱えるだろう。私が教えられる全てを伝えた。あとは、君自身との戦いだ。実は、「竜騎士の甲冑」は4つだけではない。あとひとつ、もっとも強き力を秘めた鎧があるのだ。これを、君に託したいのだが……。これを扱うには、竜の力を完全に我が物とせねばならん。かつて「蒼の竜騎士」であった時分の私でさえ、まともに扱うことは、ままならなかったのだ。だが、君ならば、きっとその力を身につけることができよう。いや、そうでなければ困る。なぜなら、邪竜ニースヘッグの力は、他のドラゴン族とは訳が違うためだ。心に潜む、僅かな弱ささえ命取りとなる。槍の腕を極め、身に宿る「竜の力」を従えるのだ。そして、その正義を槍に誓うことができたならば、再び、ここへ来てくれ。「蒼の竜騎士」◇◇◇。……待っているぞ。

蒼の竜騎士

アルベリク : エスティニアンから、報せがあった。邪竜ニースヘッグと決着をつけるため、「スチールヴィジル」に、急ぎ来てくれという。見たところ、君はまだ完全には竜の力を従えてはいない様子。だが、ニースヘッグが目覚めたとなれば、逃げる訳にはいかん。やむを得ん、エスティニアンの元へ急ごう。それに、邪竜に挑む前に、彼に「ファーンデール」の真実を聞かせねばならん。……邪竜ニースヘッグに魅入られないためにもな。

エスティニアン : アルベリクよ……すべてを精算する時がきた。お前は20年前、自ら「竜の力」を捨てた。邪竜ニースヘッグと戦い、命を落とすことを恐れ、守れたはずの俺の故郷「ファーンデール」を見捨てた。皮肉なものだな……。家族を、友を失って、イシュガルドを守るべきものなどない、この俺が「蒼の竜騎士」になるなど。だが、そのおかげで真実を知ることができた。「竜の眼」が、お前が自ら「竜の力」を捨てたことを教えてくれたのさ。聞けば、俺が「竜の眼」を持ち去ったことを教皇庁の奴らに黙っていたらしいな。ハッ……罪滅ぼしのつもりか？ まずはお前からだ、アルベリク！ お前が守ろうとしたもの、すべてを踏みにじってやる！ ニースヘッグは、その後でゆっくり俺が殺してやる……。



アルベリク : エスティニアン……駄目だ！ 槍に誓った心を思い出せ！
「竜の眼」に魅入られるな！ その力を、憎しみのために使ってはいけない！

エスティニアン : ◇◇◇……か。
……フン、俺と同じく「竜の眼」に選ばれたお前なら、この臆病者を捨て、共に邪竜と戦ってくれると思ったが。俺の見込み違いか？ それとも……死に損ないに情がうつったか？ いいだろう！ どちらが「蒼の竜騎士」に相応しいか、教えてやる！

屠龍のエスティニアン : どちらが、真の蒼の竜騎士か……決着をつけようじゃないかッ！ 行くぞ！

アルベリク : やめろっ！ 同じ時代に存在する、ふたりの蒼の竜騎士が戦うなど……！！

屠龍のエスティニアン : ふんっ、竜の眼の力が……面白い。同じ力を使うならば、後は技と技の勝負ッ！

屠龍のエスティニアン : 全力でいくぞっ！ ◇◇◇よ！

屠龍のエスティニアン : 力が……力が足りない……竜の眼よ、もっと俺に力を与えてくれ！ 全てのものを破壊する力を！！

アルベリク : エスティニアン、憎しみに飲み込まれるな！！ 槍に誓った正義の心を思い出せっ！

心に響く声 : ……弱き者よ……力が欲しいか……。
……その怒りを……憎しみを……力と欲するか……。

エスティニアン : 竜よ……帝龍ニースヘッグよ……。
何者にも屈せぬ牙を、爪を…… 竜の血を、我が身に授けよ……！
……◇◇◇……！？ い、いや……その姿は……まさか征龍将ノレドラスなのかッ！？



アルベリク： エステニアンは……？ 邪竜ニースヘッグと共にってしまったのか……？
……アドネール占星台へ戻ろう、◇◇◇。

アルベリク： あのとき……エステニアンを飲み込んだ、黒い光が襲いかかって来た時……君の姿が、
聖典に描かれた「征龍将ハレドラス」の姿に見えた。
おかしいことを言っていると思うかもしれない……。だが、見てくれ。
君のクリスタルが、見たこともない輝きに満ちている。
どうやら君は……「征龍将ハレドラス」のみが使えたという、「蒼の竜騎士」の奥儀に目覚めたようだ。
これで、君は最後の甲冑を身につけることができるはずだ。「征龍将ハレドラス」が継い戦ったという…… 「蒼の竜騎士の鎧」を！
◇◇◇。君は、本当に不思議な人だ。……君は、もしや……。
いや……すまない、忘れてくれ。その鎧はきっと、君の正義と勇気の心に対し、「征龍将ハレドラス」が授けてくれたのだろう。
黒い光が消え去ると同時に、ニースヘッグの気配も消え、ドラゴン族どものざわめきも鎮まった。
それが、君の目覚めに関係があるのかどうか……。
今の私にできることは、君の力がエステニアン的心里に届き…… あやつが無事であってくれることを祈るのみ。
どれほど憎まれたとしても、エステニアンは弟子であり、我が子も同然だから……。
あの黒い光に触れたとき、私は…… 20年前に垣間見た感情のうねりと似て、しかし非なる言葉を聞いた。
イシュガルドとドラゴン族の間に横たわる、深く悲しい溝を嘆く声を……
……冒険者の君にも、いつか語る時が来るかもしれない。君はどうか、その力を君の信じる正義のために、使ってくれ。

登場人物

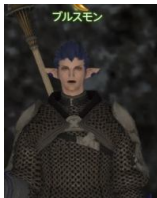
アルベリック：元竜騎士



エステニアン：竜騎士



ブルスモン：イシュガルド神殿騎士



ウスティエヌ：イシュガルド神殿騎士



イドリスταν：フロランテル監視哨 神勇隊？



ロジュダンレル：アドネール占星台の衛兵



イウェイン：槍術士ギルドマスター

